

2018 年度ミャンマー活動報告

期 間：2018 年 8 月 13 日～17 日

場 所：ヤンゴン、マンダレー

参加者：小久保 謙一（国際委員会）、張 同輝（国際委員会）、宮本 照彦（国際委員会）、薄井 園（国際委員会）、矢部 広樹（国際委員会）、齋藤 慎（国際委員会）、桜沢 貴俊（国際委員会）、Thet Thet Lwin（北里大学）、徳田 安春（群星沖縄臨床研修センター）、佐藤 幸博（板橋中央総合病院、海外支援ボランティア）、杉本 膳寿（医療法人やまびこ会、海外支援ボランティア）

8 月 13 日～14 日にヤンゴン、15 日～16 日にマンダレーにおいて水質を中心とした透析室の安全に関するワークショップ（Workshop on blood purification & vascular Access (Hands on)）と実際の水質チェックおよび患者のシャント評価を行った。ワークショップでは、日本の透析室業務の概要を講演（具体的には水質の話、透析室における臨床工学技士の日常業務、VA 評価、看護師の役割、リハビリテーションの関わり、トータルの安全の概念）するとともに、エコーを用いて実際の VA 評価をハンズオン形式で実施した。前回までの訪問で、メンテナンス

体制が不十分であること、また肘窩でのバスキュラーアクセスがほとんどなため、肘窩アクセス作製の合併症が発生しやすいこと、DW 設定が緩やかなところも多く、溢水・呼吸困難症例も多いなどの問題点が見受けられたことから、それらの点をディスカッションできるような構成とした。加えて、別途、リハビリテーション医と腎臓内科医および理学療法士に対して、透析患者への運動療法についての説明も行った。今後、両者のコラボレーションが進むことも期待したい。また昨年同様に、透析室の水質調査も引き続き現地エンジニアとともに行った。

